

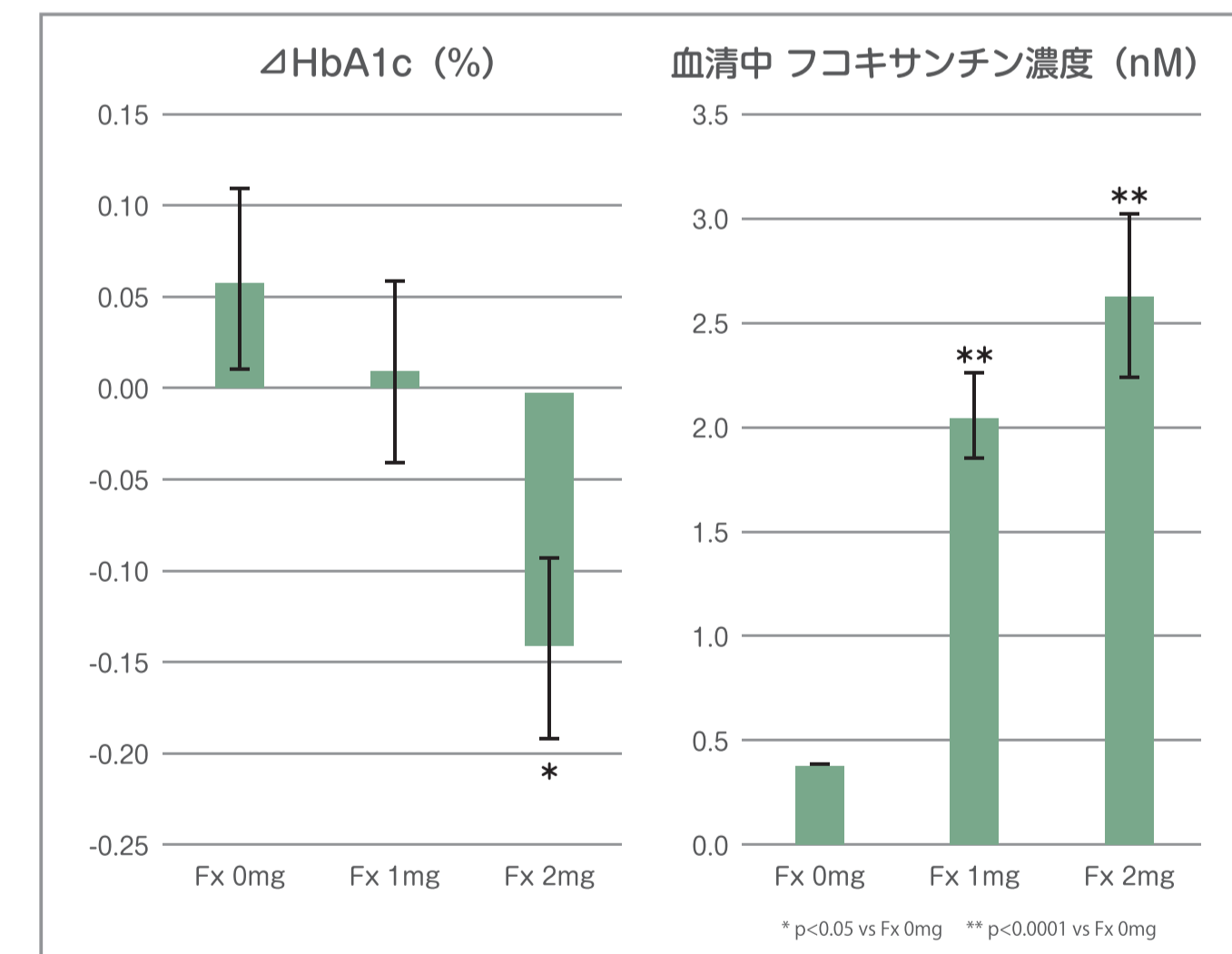
アカモク由来フコキサンチン含有オイルがHbA1cを改善



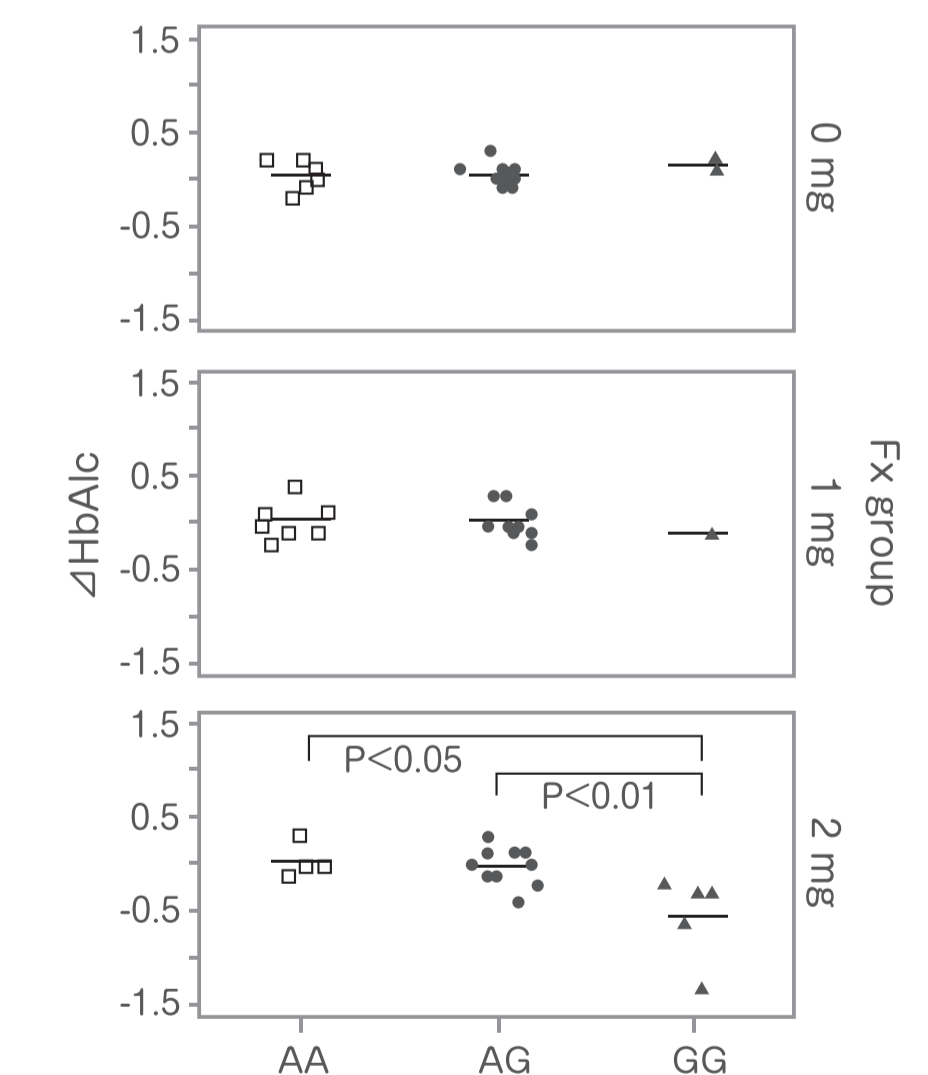
アカモク由来フコキサンチン含有オイルの摂取は HbA1c を改善し、特に肥満や糖尿病のハイリスク型である脱共役タンパク質 1 (UCP-1) の遺伝子多型において肥満や糖尿病の改善に寄与する可能性が示唆された

〈図〉 アカモク由来フコキサンチン含有オイル摂取 8 週後の血中 HbA1c 濃度変化および血中フコキサンチン濃度

a 血中 HbA1c 濃度変化および血中フコキサンチン濃度



b UCP-1 遺伝子多型と中 HbA1c 濃度の関係



脱共役タンパク質 1 (Uncoupling Protein 1) の DNA 配列をつくる塩基が 1 個だけ置き換わった多型を「1 塩基多型」(single nucleotide polymorphism: SNP) といい、褐色脂肪細胞のミトコンドリアで熱産生を行う。日本人の約 24% が 3826 番目の塩基がアデニンからグアニンに置き換わった SNP を持っていると言われ、基礎代謝量が低くなり肥満や糖尿病のハイリスクであることが知られている。この UCP-1 の遺伝子多型が血中の長期の血糖値を反映する HbA1c の濃度と関係があることが示され、アカモク由来のフコキサンチンの摂取で、HbA1c 濃度が低下することが示された。